

上部頸椎専門 19

カイロプラクティック 臨床レポート

日本上部頸椎カイロプラクティック協会正会員 吉成 剛*

上部頸椎一箇所のアジャストメントによる身体の変化を臨床例から報告しています。今回は整形外科的な症例と心療内科的な症例を報告します。

臨床におけるルールは以下のとおりです。

1. 病気・症状の診断、治療は行いません。
2. 必ず検査を行い、上部頸椎のサブラクセイションの有無を確認します。
3. 検査の結果、上部頸椎にサブラクセイションがなければ、アジャストメントは行いません。
4. 他の療法との併用、健康器具を使用しないで様子を見て頂きます。

不妊症とは結婚後、避妊をせず2年間妊娠しなかった場合と定義されており、現在10組に1組の割合、全国で約200万組の夫婦が悩んでいるといわれています。原因は

遺伝子の問題、過去の病気の罹患、内分泌系の問題、生殖器の問題など色々なケースがあります。また子供を授かりたいのに出来ないという強い気持ちがストレスとなり、心身にも影響を及ぼす事になってしまいます。

上部頸椎専門カイロプラクティックを受けられた後に妊娠したという報告を時折聞きますが、全ての不妊症に対して有効とは当然ながら断言できません。しかし上部頸椎サブラクセイションが各々の卵子、精子の状態、そして着床、受精というように妊娠のプロセスに影響を与えている可能性があるならば、一刻も早くサブラクセイションから解放されるべきでしょう。サブラクセイションを病気の原因と考えるよりも生体の活動能力の欠如と捉えれば、医療的アプローチとは全く異なったカイロプラクテ

*吉成剛 (よしなり・つよし)

●連絡先: 吉成カイロプラクティックオフィス

〒253-0021 神奈川県茅ヶ崎市浜竹2-1-9 湘南ドリームパレス203号

TEL & FAX. 0467-58-6065

協会HP: www.specific.jp

イックにおける治癒・改善という可能性を選択肢として見出すことが出来ます。症例において着目する事はアジャストメント後の基礎体温の変化です。

□症例□

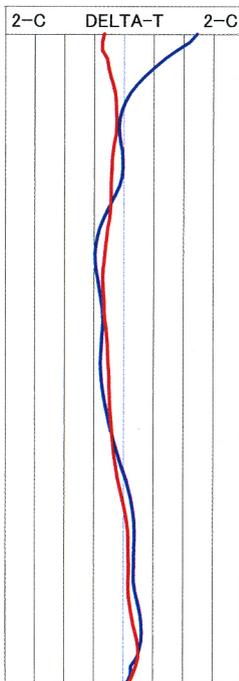
不妊症を心配している女性

性別：女性 年齢：30歳 職業：主婦

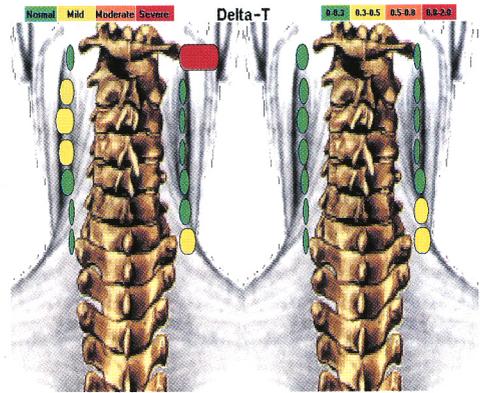
●自覚症状：首から肩にかけて重く痛い。冷えと便秘が酷い。不妊症を心配している。(結婚5年目。サプリメント服用中)

初回・来院1回目 2007.1.21

上部頸椎リステイングASRでアジャストして休息用ブースで60分間休んでいただく。



青がアジャスト前の波形、赤がアジャスト後の波形
アジャスト後、上部頸椎部のパターン(右カーブ)がストレートになっている。



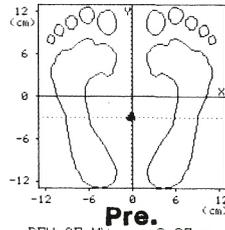
アジャスト前

アジャスト後

●その他の検査結果

伏臥にて左足が0.8cm短い→0.3cmほど残る
仰臥にて右足が1cm短い→揃う
仰臥における両手拳上にて左手が3cm短い→揃う

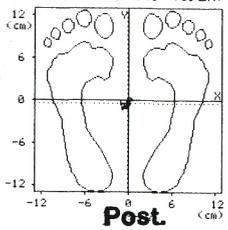
DEVIATION OF COP (OPEN)



DEV OF Mx	-0.27	cm
DEV OF My	-3.05	cm
DEV OF X0	-0.28	cm
DEV OF Y0	-3.00	cm

アジャスト前

DEVIATION OF COP (OPEN)



DEV OF Mx	-0.27	cm
DEV OF My	-0.51	cm
DEV OF X0	-0.34	cm
DEV OF Y0	-0.51	cm

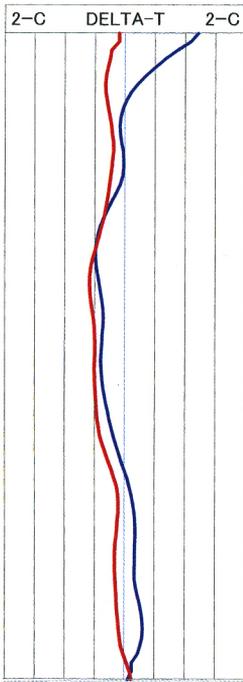
アジャスト後

アジャスト後、前方へ移動している。

●患者さんの言葉：アジャスト直後、手が温かい。その後上半身が暖くなり、首の張りが取れた。

来院2回目 2007.4.4
初回より約2カ月経過

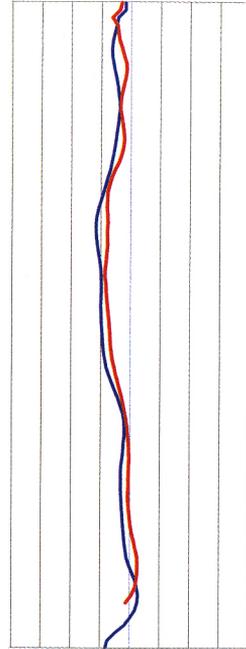
●患者さんの言葉：一旦首が重くなったことがあったが、その後自然に消えた。以前から不妊症の心配があったので毎日基礎体温を計測していた。アジャストを受ける前までは基礎体温表のグラフがかなり乱れていたが、アジャスト翌日から安定して綺麗な波形になり、基礎体温も上昇した。



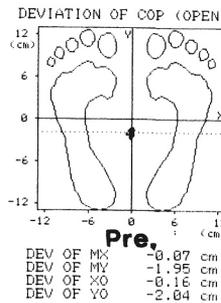
青が前回の調整前の波形、赤が今回の調整後と同様の波形が確認できる。

パターンの右カーブが若干出て来ているものの、随分改善されている。しかし、短足、短手の戻り、頸椎部の筋肉の緊張など全体的にサブラクセイション出現の徴候が現れてきた。

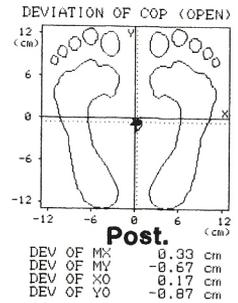
上部頸椎リステイングASRでアジャストして休息用ブースで60分間休んでいただく。



青が今回のアジャスト前、赤がアジャスト後の波形



今回のアジャスト前



今回のアジャスト後

●その他の検査結果

伏臥にて左足が1.5 c m短い→揃う
仰臥における両手挙上にて左手が1 cm 短い→揃う

2008年6月6日(初回日から約1年4ヵ月後)に電話があり、その後の体調を伺ったところ、当初あった首から背中に掛けての重さと痛みは全く無くなって調子が良くなり便秘は時々あるが、冷えは以前より改善したとのこと。そして現在妊娠8ヵ月ということでした。

妊娠を望む女性の多くは基礎体温表を記録しています。それは女性の身体のコンディションに密接に関わっている女性ホルモンの活動をチェック出来るからです。基礎体温とは体の動きが最も安静な時の体温で、朝目覚めたら床の中で計測します。基礎体温は一般に低温期と高温期に分かれます。それにより次の月経がいつ来るか、いつ位に排卵があるかを予測する事が出来ます。症例の患者さんの場合、サプリメントを服用されてはいましたが、アジャストメントを受ける前は低温期、高温期と判別が出来ないほど基礎体温表のグラフが乱れていたそうです。またアジャストメント後は基礎体温が総体的に上昇したと話しておられました。アジャストメント後にそれらの変化があったということは上部頸椎サブラクセーションが女性ホルモンの活動、結果的に不妊症に少なからず影響を与えていたと推測できますし、首から肩に掛けての痛みなども消失していることから全体的に症状も改善していることが分かります。不妊症に限らず冷えは女性の大敵です。この場合基礎体温が上がったということは、温浴

などで温めて一時的に血行が良くなって体温が上がったのではありません。根本的に身体活動のレベルが上がったことを意味しています。低体温だった人が上部頸椎のアジャストを受けてから微熱のような感じがしばらく続く場合がありますが、結果的に平熱が35℃台から36℃台になって夏場の冷房も今年は辛くないとか、冬に厚着をしなくてもよくなったと言われる方も多くいらっしゃいます。

カイロプラクティックの発展者と呼ばれるB.J.パーマー博士は生体の活動源であるイネイト・インテリジェンスについて語るに当たり、イネイト・フォース(内なる叡智のもたらす力)の流れをAbove Down Inside Out(上から下へ、内側から外側へ)と唱えました。それは脳幹(Above)より全身(Down)に、身体の内部(Inside)から外部(Out)へと流れます。それに対して、医療的アプローチは薬品、物理的刺激など全て外側(Out)から内側(Inside)に向けたものなのです。これは医療を否定している訳ではなく、カイロプラクティックのアプローチと医療のアプローチが本質的に異なることを示しています。西洋医学でなかなか改善しなかった症状が、上部頸椎のアジャストメントにより改善がみられるということは、自然界において理に合った方法だからなのかもしれません。